

平成 26 年度第 1 回多文化都市八戸推進懇談会（平成 26 年 6 月 26 日）会議録

議題 1 「多文化推進政策について」

議題 2 「平成 26 年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査」について

●事務局

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今から、平成 26 年度 第 1 回多文化都市八戸推進懇談会を開会いたします。

それでは、第一回目の懇談会ということで、事務局の職員を紹介させていただきます。

まず、まちづくり文化スポーツ観光部部長の高島 司（たかしま つかさ）でございます。

まちづくり文化推進室、文化推進グループリーダーの皆川 貴司（みなかわ たかし）でございます。

同じく、文化推進グループ主査の、小泉 真紀子（こいずみ まきこ）でございます。

今年度、異動により文化推進グループに配属になりました、主査の鈴木 俊博（すずき としひろ）でございます。

同じく、主事の吉田 英二（よしだ えいじ）でございます。

アートのまちづくりを推進するために、平成 23 年度から芸術環境創造専門員を採用しておりますが、今年度、二人目の芸術環境創造専門員として採用、文化推進グループに配属になりました高橋 麻衣（たかはし まい）でございます。

もう一名の大澤 苑美（おおさわ そのみ）は、本日別業務の為欠席とさせていただきます。

また、文化推進グループの古町 有加（ふるまち ゆか）は、現在長期研修中のため、欠席とさせていただきます。

そして、私、文化推進室長の松橋でございます。

引き続き、関係課の職員が出席しておりますので、紹介させていただきます。

八戸市美術館長の山田 泰子（やまだ やすこ）です。

八戸ポータルミュージアム館長の風張 知子（かざはり ともこ）です。

同じく、副館長の工藤 俊憲（くどう としのり）でございます。

同じく、企画運営グループリーダーの高森 大輔（たかもり だいすけ）です。

そして本日は、オブザーバーとして八戸市公会堂等の指定管理者である株式会社アート&コミュニティの類家 敦（るいけ あつし）代表取締役にご出席いただいております。

以上で、事務局の紹介を終わらせていただきます

それでは、ここからの議事進行は、内海会長にお願いいたします。

●会 長

それではさっそく始めさせていただきます。委員は昨年同様 7 名ですが、今日は塚原

委員と米内委員の2名が欠席となっております。

それでは次第に従いまして進めさせていただきたいと思っております。お手元の資料の一番上にあります次第の(1)多文化推進施策について、事務局からご説明申し上げます。

●事務局

それでは事務局のほうから説明させていただきます。今年度の多文化推進施策について御説明する前に、御報告をさせていただきたいと思っております。資料1-1をご覧ください。

既に報道等でご存知の方も多いと思いかと思っておりますけれども、平成25年度文化庁長官表彰を八戸市が受賞いたしました。この制度は平成19年度から実施されておりました。文化芸術を生かしたまちづくりにおいて特に顕著な成果を上げている市区町村に対して、文化庁長官が表彰するというもので、今回は八戸市のほかにいわき市、千曲市、尾道市が受賞しております。ちなみに青森県では八戸市が初の受賞となっております。

当市につきましては、当懇談会で議論いただいているような多文化推進の取組、アートのまちづくりなどが評価されておりました。具体的にはフィールドミュージアム構想、ポータルミュージアムはっち、南郷アートプロジェクト、工場アート、三社大祭、八戸えんぶりなどが挙げられております。

受賞に際しましては、5月8日の日に青柳文化庁長官が直接八戸においてになって、市長に賞状と賞牌を授与いたしました。賞状と賞牌につきましては現在ははっちの入口に展示しておりますので、機会がありましたらご覧いただければと思います。

こちらの報告は以上です。次から今年度の多文化推進事業についてご説明いたします。担当の方から説明いたします。

●事務局

●まちづくり文化推進室

まず、多文化都市八戸推進事業補助金についてご説明をさせていただきます。資料1-2-1をご覧ください。この制度は先駆的、創造的な芸術文化活動に対して補助金を交付するもので、平成20年度に創設し、今年で7年目となります。

昨年度は申請が5件ありましたが、今年度は2件でございました。審査結果については議題2において別途ご説明いたします。

補助対象経費(4)の会場使用料については、市公民館、南郷文化ホール、はっち、八戸市美術館を利用した場合は、リハーサル含めた2日間分まで全額減免としております。補助金の額ですが、対象経費の2分の1または10万円のいずれか低い額としております。

資料1-2-2は審査基準、1-2-3は昨年度までの利用実績となっております。

続きまして、「多文化都市八戸推進ワークショップ開催支援事業」について、ご説明します。資料1-3-1をご覧ください。

こちらの制度は、先ほどご説明した補助金の交付対象ともなり得る先駆的・創造的な芸術文化活動の取り組み拡大や、文化活動の担い手育成を目的として、市民が実施する

文化的なワークショップに対する支援制度です。こちらも今年で7年目となります。

資料 1-3-2 は昨年度までの利用実績となっております。

補助金とワークショップ支援については以上となっております。

次に、「アートのまちづくり推進事業」についてご説明します。資料 1-4 を御覧ください。

まず、事業の概要ですが、地域の様々な課題解決にあたり、「アート」的な視点を活用して、地域に埋もれた資源を掘り起こし、市民力を結集させて、まちづくりに活用しようとするものです。

これまでの経緯につきましては、資料にまとめてありますとおり、当懇談会の前進となる「多文化都市八戸推進会議」の設置以来、「はちのへアートのまちづくり提案書」など様々なご提言をいただきながら、文化施策の指針やビジョンの必要性について検討して参りました。

平成 25 年 2 月からは文化ビジョン策定のための庁内ワーキングを開始し、今年の 4 月までに 6 回のワーキングを重ねております。

今後の策定スケジュール等につきましては、後ほどご説明いたします。

現在実施しているアートのまちづくりにかかる事業内容について、主なものをご説明します。

一つめは、「南郷アートプロジェクト」です。平成 23 年度から実施しております。地域の文化活動の中核となる南郷文化ホールがあり、地域資源も豊富な南郷区において、地域住民とアーティストとの交流による新しいまちづくりを実践するものです。

アーティストが地域コミュニティに入り込み、地域住民と一緒に作品創作に取り組むコミュニティプロジェクトや、南郷の資源であるジャズとコンテンポラリーダンスを組み合わせたダンス公演、そして、南郷区在住のアーティスト・山本耕一郎さんの住居であります通称「山本さんち」を拠点に、アーティストと地域住民が年間を通して交流しながら、協働で地域が抱えている問題と向き合い、新たな価値の創造を目指す活動を実施するものです。

山本さんちプロジェクトは平成 24 年度から継続して行っております。

南郷アートプロジェクトの今年度の事業内容は、後ほどご説明いたします。

二つめは、「工場アート 八戸工場大学」です。工場アートは、平成 24 年度から実施しております。八戸市内に数多くある工場を地域資源と捉え、産業観光に結びつけるとともに、文化的側面からアプローチすることで、八戸の工場の新しい魅力を市内外に発信する試みです。

昨年度は、継続的で開かれた市民活動の場となる「八戸工場大学」を開学し、市内の工場を知るための講座を開催したほか、受講生やアーティストによる文化祭を実施しました。工場アートの今年度の事業内容は、後ほどご説明いたします。

三つめは、まちなかアトリノベーション拠点整備事業です。平成 25 年度から実施しております。空き店舗を活用し建物のリノベーションだけでなく、文化活動そのものの在り方を変え、更なるブラッシュアップを目指す試みです。クリエイティブな活動をしたい人が集まる場、文化活動の担い手を育成する場を目指して実施します。

平成 25 年度は、ヤグラ横丁の旧福年商店の建物を借り上げ、市民ボランティアによる「大そうじ大会」などを行い、「福年ファクトリー」として整備した上で、活動拠点としての利用方法の検討や利用団体のサポート、各種イベントや情報発信など様々な取り組みを行いました。

まちなかアトリノベーションは今年度も引き続き実施する予定でありまして、現在、今年度の事業内容を検討しているところでございます。

四つめは、美術館連携事業です。平成 23 年度から実施しております。八戸市美術館特別展の開催期間中に、特別展及びそのテーマに関連したイベントの開催や、中心商店街の協力店において特別展の半券を持った人に割引サービスなどを行うなど、美術館に来館した人を商店街に誘導することにより、文化の普及と中心街の活性化を図るものです。今年度の事業内容は、現在検討中でございます。

五つめは、「芸術環境創造専門員」の採用です。全国のアーティストに精通し、アーティストとのネットワークも豊富で専門的知識を有する人材を「芸術環境創造専門員」として平成 23 年度から採用しております。前述の事業のプロデュースなど、アートプロジェクトに求められる専門性に対応するため、今年度から 1 名増員し、現在 2 名体制でアートのまちづくり業務に当たっております。

このあと引き続き、南郷アートプロジェクト、工場アート、そして文化のまちづくりビジョンについて、各担当からご説明いたします。

南郷アートプロジェクトは今年で四年目を迎えますが、昨年度同様、ダンスやアートを活用して地域の色々な資源を巻き込みながらプログラムを行っていきます。

いくつかあるのですが、まず、8 月 9 日から 8 月 30 日まで「しまもりの夏休み」と題しまして、今年の 3 月に閉鎖した島守保育所の活用方法をアートで模索してみようという企画がおこなわれます。アーティストが合宿を行ったり、また、島守在住アーティストの山本耕一郎さんが、地域の方がたまるような図書館スペースを作ってみたりと、アーティストの視点で様々な保育所を活用します。

続きまして、映画を作ろう！2 中野ワルツ製作委員会「あなたとわたしワルツ」です。こちらは昨年度、鳩田小学校でダンス映画を作らせていただいたのですが、今年の中野小学校に移りまして、同じようにダンス映画を、アーティストが振り付けや演出などをして、生徒の方々と地域の皆さんを巻き込んでダンス映画を制作します。

10 月 5 日には、舞踏×えんぶり 大駱駝艦・田村一行舞踏公演が行われます。大駱駝

艦という白塗りでパフォーマンスを行う有名な舞踏団体が、地元の荒谷えんぶり組からえんぶりを習い、そこからインスピレーションを受けて新しい舞台作品を創作して上演いたします。

12月6日、7日にはダンス×JAZZ vol4 ということで、今年四回目を迎えるのですが、ダンスとジャズを掛け合わせて、新しい作品を創作し上演します。地域外のダンサーだけでなく、八戸のダンス教室のワンムーブの方や八戸の音楽家の方にも御出演いただきます。

年明けの1月15日は森下真樹ダンス公演「これってダンス？」がおこなわれます。森下真樹さんは、南郷アートプロジェクトに2011年からかかわっていただいております。今年も公演を行います。公演には、地元消防団員の方々によるパフォーマンス団体「沢代キュートン」も出演し、地域を巻き込んだ公演になります。

通年の企画としては、「島守あれこれ創造計画」ということで、島守に2012年から住んでいらっしゃるアーティストの山本耕一郎さんが、アーティストの視点からまちづくりのようなことを手がけまして、地域にこういう場所があったらいいなとかこういう活動があったらいいなということを推進していく活動を行っていきます。

以上が今年度のラインナップになります。

続きまして、平成26年度の八戸工場大学についてご説明いたします。昨年度からはじめまして、今年度もひきつづき、昨年度と同様の形で進めていきたいと考えております。八戸市は臨海部を中心に工場が密集しております。これまでは雇用とか物を作る場として当然のように捉えてきたのですけれども、新たに文化的視点から読み取り、市内外に発信して新たな地域資源としていきたいということで、昨年度から市民を巻き込んで一緒に工場について考えております。

今年度も昨年度と同様、講義、サークル、課外活動の三つの柱に展開していきたいと考えておりまして、7月上旬から末までかけて受講生を募集する予定になっております。

裏面をご覧くださいと、今年度の講義の内容が粗方きまっております。8月6日を第一回としまして、10月の15日まで、だいたい隔週の水曜日に開催するということになっております。こちらのほうは工場の職員の方々に講師としておいでいただきます。

一回目はJX日鉱日石LNGサービスに来ていただいております。二回目は東京鉄鋼とエプソンアトミックス。三回目はアーティストを招いてアートワークショップを開催したいと考えております。四回目は近畿大学の岡田教授を招きまして、工場を景観として捉えて講義を開催していただきます。五回目は八戸キャニオンで有名な八戸鉱山の方をお招きして講義をいただきます。第六回目につきましてはNPO法人で、神戸を拠点にしているJ-heritageさんをお招きして公演いただきたいと考えております。

課外活動については現在検討中でございますけれども、工場見学ツアー等を予定しております。これから市内の工場と調整を行いたいと考えております。

サークル活動につきましては、講師としてもお出でいただくJX日鉱日石エネルギーサービスさんと何かアートプロジェクトをできないかと現在色々と調整中でございます。

他にはアサヒアートフェスティバルにつきましては、これはアサヒビールのメセナ活動でございますけれども、全国のアートプロジェクト 60 団体が集まるネットワークでございます、こちらのほうに工場大学が今年参加させていただいております。ネットワーク会議や報告会に参加するほか、ネットワークに参加している団体との交流も実施しております、第六回目においでいただく NPO 法人の J-heritage さんも、こちらの関係でおいでいただく事になっております。

観光コンベンション協会との連携も考えておりまして、観光コンベンション協会で青森県から委託を受けて工場のモニターツアーを実施いたしますので、何か連携をできないかと現在調整中でございます。

以上が、工場大学の現在の状況のご説明でございます。

引き続きまして、文化のまちづくりビジョンについてご説明いたします。資料の 1-7-1、1-7-2 をご覧ください。こちらの懇談会でも一昨年頃からビジョン策定について色々話題になって議論してきていただいておりますけれども、昨年の市長選挙の際の公約の中にも、「芸術やアートを生かしたまちづくりを進めるため、文化のまちづくりビジョンを策定します」という様な公約が掲げられたところでありまして、今年度中にビジョンを策定したいと考えております。

ビジョンの策定に向けまして、昨年から東京藝術大学の熊倉教授の指導の下、庁内の関係部署によるワーキングを六回にわたって実施してきております。資料 1-7-1 がそのワーキングの内容をまとめたものでございます。これまでワーキングでは現状の分析とか課題の整理、目標の設定などいろいろと関係課で話し合ってきておりまして、現在ワーキングを踏まえてビジョンのラフ案を作成しているところでございます。

今後のスケジュールにつきましては資料 1-7-2 をご覧いただきたいと思っております。現在ラフ案を作成しておりますが、7 月頃に完成させて、庁内の関係課で二回目のワーキングを 8 月頃に開催する予定です。それを踏まえましていろいろと修正をして、ビジョンの草案として 10 月をめどに完成させたいと考えております。そちらの草案を持って第二回の懇談会、10 月下旬を予定しておりますけれども、いろいろとご意見をいただければと思っております。そちらの御意見を踏まえまして、事務局の方で修正作業をいたしまして、ワーキングで検討して、懇談会の三回目が 1 月下旬頃を予定しておりますのでそこにもう 1 度修正した草案を提示して、ご意見をいただき、年度内の 2 月頃には完成させたいと考えております。

後 1 回、2 回で議論が尽きないようであれば、状況に応じてこちらの懇談会をワーキングという形で開催できればと考えておりますので、議論の状況によっては、また委員の皆様にご相談させていただければと考えております。

ビジョンについては以上でございます。続きまして美術館からお願いします。

●美術館

美術館の方からは今年度の大まかなスケジュールの方をご説明させていただきます。

資料が A4 のペーパー1 枚と、カラーの印刷物「美術館展覧会のご案内」という 4 つ折になった物と、現在開催されておりますコレクション展 I 藍～Japan Blue～のチラシを皆様にお配りしているとかと思いますので、こちらを基にご説明させていただきます。

現在やっておりますのが、コレクション展 I 藍～Japan Blue～ということで、今年ワールドカップを盛んにやっております、サムライブルーとも呼ばれております「藍」をテーマにいたしまして、当館収蔵の藍染の着物類、博物館から一部作品をお借りしております。特に今回は青森市の青森藍産業協同組合からも作品をお借りしてきておりまして、青森における「藍」を産業の面からも公開しておりますので是非皆様時間がありましたら 7 月 21 日までとなっておりますのでご覧いただければと思います。

今後の予定になりますが、カラーの四つ折のパンフレットでご紹介してまいります。

今後夏にかけてまして、7 月 26 日から 8 月 17 日まで、日本画をテーマにいたしまして、江戸末期から明治にかけて活躍しました橋本雪蕉の作品と、大正から昭和にかけて地元八戸を中心に活躍、特に十和田湖の画家として愛された七尾英鳳の作品をテーマにあてまして、全館を使いまして収蔵品を中心に紹介いたします。

その後、8 月 22 日から 9 月 15 日までは、八戸市の市民アート団体 ICANOF さんとの共同開催ということで、矢野静明という作家さんをお招きして「種差 Enclave」飛び地という意味だそうですが、種差を矢野さんの絵画を通して、あるいはトークとダンス様々なパフォーマンスを通して、種差の魅力を開放していくという展覧会となっております。

それから冬にかけてまして、12 月の 20 日から年明けの 2 月 8 日まで「岩合光昭写真展」ということで、テーマは「ねこ」です。動物写真家として世界各地を撮影に歩いている岩合さんですが、最近では NHK の「ねこ歩き」という番組でも知られている作家です。今回はその中でも日本各地、世界各地の猫とその土地に暮らす人々と動物との関わりという視点から猫を捉えているものでございます。作品の中には青森県弘前の猫も含まれています。これは気張って見るようなものではなくご家族揃って見ていただく様なやわらかい作品の展示になりますので、冬休みということもあって、皆様に見ていただきたいと思っております。

そのほか、コレクション展では秋口の工芸品、木工品を使った「素材の造形美」、それから秋の 11 月から 12 月にかけてましては、陶磁器を中心としました「受け継がれるもの～濱田庄司と二人の息子～」これは、栃木で益子焼の釜を構えて活躍している作家さんと、その二人の息子さん作品の展示になります。

最後、2 月 14 日から 3 月 22 日までは、八戸出身で、全国の二科会に所属して活躍しました石橋宏一郎さんの～郷土を描く～とうことで作品を紹介します。

以上で年間の展覧会スケジュールということになります。下の方に、展覧会とは別に教育普及活動という欄がありますけれども、これから夏休みにかけてまして、親子で楽しむ夏休みということでワイヤーアート、針金を使った造形とそれから、「カメラを持って外に出よう」ということで、写真のワークショップ、今年は小中野から鮫、種差方面に向かって移動しながら「昭和のにおいを嗅ぎ取ろう」ということで、それぞれの場所で

何か昭和っぽいものを見つけて撮ってくるというものです。撮影後は講義室で講師の方にカメラアングルや題材の撮り方を批評してもらい、という講座になります。それから「ガラス工作」ということで、様々なガラスのかけらを使って自分の創造したオブジェを作ろうということで夏休み開催されます。

それから秋口ですけれども、同じく館外講座といたしまして、寺社と仏閣、仏像を巡ってその中の美を見つけようということで、館外講座を開催いたします。それから冬場は版画の講座が二つあります。シルクスクリーンの講座と銅版画の講座で、これは大人を対象とした講座になります。

以上、美術館のスケジュールのご説明でした。

●はっち

八戸ポータルミュージアムはっちについて説明いたします。資料としてはA4サイズの資料とそれからA3のスケジュールと、また、チラシをいくつか付けさせてもらっております。そちらをご覧くださいながら説明したいと思います。

はっちですが、「地域の資源を大事に思いながら新しい活動を目指す」をコンセプトに、会所場づくり、貸館事業、自主事業の3つの柱で事業を運営しております。

A3のスケジュールをご覧くださいればわかりやすいかと思いますが、貸館については開館3年経過して非常に市民の方にも認知されて利用率が高まっております、その中で「森のめぐみ展」ですとか「はっちで千葉高」とか比較的毎年の恒例のような貸館も定着してまいりまして、日ごろから地域の方から利用されております。

また、自主事業に関しましては、例えばシーズンイベントとか和日カフェのように中心街と連携して中心街の集客に結びつくようなイベントであったり、中心街のイメージをがらりとかえるような事業を定期的におこなう一方で、ものづくりの方ではっち市のように年に1回全国からたくさんのクラフト作家さんを公募しておこなうような、集客力のある事業も展開しております。

そのなかではっちでは、特徴的な活動として5階のレジデンスを活用したアーティストレジデンス事業をしているのですが、今年度からはそのレジデンス事業の一つとして、「はっち魚ラボ」事業を展開しております。これは海から開けた町八戸と言われますけれども、八戸に根付いている、魚をおいしく食べる知恵とか技術とかいわゆる魚食文化がありまして、それを市民の皆さんと一緒に、魚食文化を通して八戸の豊かさとか八戸のすばらしさを発見していくというアートプロジェクトを展開してまいります。

いくつか柱があるのですけれども、一つは魚ラボ会というのを毎月行っております。ついこの間6月9日に水産省職員でテレビにも出ている上田勝彦さんをお招きしましたが、毎回そのいろんな魚食にまつわるテーマを設定しまして、それに関係する講師の方をお招きして市民と一緒にクロストークを行っていく場が毎月1回ございます。

もうひとつ「はっちフィッシング」がありまして、こちらは八戸に根付いている魚をおいしく食べる技とか知恵とかの情報を、釣りに例えてキャッチしております。そうやって集めた情報は随時発信したり、あるいは最終的にアーカイブ展に展示したり、また

先ほどご説明した魚ラボ会のテーマとして出したりと、さまざまな物を集めていく事を目的としています。

もう一つ「写ギョ」とありますけれども、写真家の田附勝さんという「木村伊兵衛賞」という写真界でいう芥川賞を受賞された方なのですが、その写真家の方をお招きしましてこの方が地域に入り込んでそこに住む人々とか、あるいはその魚を取る生業とかを写真に収めていってそれを、最終的にアーカイブ展として来年の1月下旬から2月中旬ごろにかけて写真展を開催する準備しております。

また、はちのへ魚ケチャワークショップといいまして、ケチャというインドネシアの民族舞踊みたいなものがあるのですが、これの八戸バージョンを作ります。八戸といえば鯖とイカということで、その鯖とイカの戦いみたいなものを物語形式でケチャにしてワークショップを行い、最後にはっちで発表することになっております。

以上のような、さまざまな取り組みを通して八戸の魚食文化に迫っていくプロジェクトをはっちで行ってまいります。

もうひとつ、チラシで八戸物語というチラシがございます。八戸物語というのは、昨年はっちでアーティストインレジデンスのアーティストを公募いたしまして、オランダ在住のあべさやかさん、マヌス・スウィーニーさんの二人のユニット「SAMA・YAMA」を選出いたしました。この二人が地域に入り込みまして、八戸の海に伝わる言い伝えとか民話とか人々の知恵などの聞き取りを行って、そこから彼らがイメージを紡ぎだして、それを最終的に映像作品として作り上げるというプロジェクトです。

もうお二人は6月の頭からレジデンスしております。通常ははっちのレジデンスに滞在して、そこから出ていろいろ作品を取材したり、作品を作るかたちになるのですが、彼らは今、陸奥湊駅の向かいにある市営魚菜市場の、2階の空きスペースをスタジオとして借りておりまして、そちらに滞在しながら、いさばのかっちゃんとかお客さん達と交流しながら作品のイメージを固めていって、製作をしております。ちょうど先日デーリー東北の取材がありまして新聞にも載せて頂きましたし、だいたい日中はそこに行くとお二人に合えるかと思えます。はっち以外の所でスタジオを構えてそこでレジデンスしながら、作品を作っていくというのは初めての試みとなっております。こちらについては、7月5日に、いわとくパルコでお披露目の上映会を開催いたします。

また、その後もはっちの館内で、彼らの映像作品の展示をおこなってまいります。そちらのレジデンス事業もおこなってまいります。

また、皆さんの手元に配られた「はちみつ」ですが、ちょうど出来たてほやほやで今日出来たばかりの青いはちみつと、もう一つはピンク色の前の号、3月に発行したものがありますけれども、そのピンクの方の中にまちなか手書きマップという地図がございます。

これはマップの裏面に「まちなか女性目線委員会」のメンバーが書いてありますけれども、はっちで日頃モヨotte参道事業などをやっている中で関わっていただいている若い女性を集めまして「まちなか女性目線委員会」という活動隊を結成いたしました。それで、彼女達が去年1年間かけて中心街を取材して回ってですね、彼女達の視点にふれ

たいろんな情報を集めてこういうマップとして作ったという事です。ですから、その手書きマップの情報も若い女性の視点で集めていますので、若い女性は中心街をこういう風に見てるんだなあというのがわかる、こういう活動もはっちの方で展開しております。はっちの説明は以上です。

●アート&コミュニティ

公会堂・公民館・南郷文化ホールの事業について説明させていただきます。会議資料には特別お付けしておりませんが、お手元の平成 26 年度文化事業のご案内、このリーフレットを御参照いただきたいと思います。

ラインアップの中にはすでに実施済みのものもございますが、主催・共済あわせまして 37 の事業が紹介されております。

これから、実施してまいります主な事業を説明いたします。まず公会堂のほうですけれども 8 月 12 日宝くじまちの音楽会、これは岩崎宏美さんと宗次郎さんのコンサートになります。このチケットは今月初旬から発売になっていますが、ラスト 2 階席 1 列ちよつとが残っている状況で、まもなく完売かと思われます。

次の 8 月の 28 日、松竹の特別公演ということでピーターこと池畑慎之助さんのピーターズレビュー、水谷八重子さんとのコラボレーションで、「愛の賛歌越路吹雪を慕って」という名前ですけれども、ショー形式の舞台を提供させていただきます。

9 月の 6 日でございますけれども、音楽の演奏と映像を組み合わせました女優紺野美沙子さん主催の朗読座の公演がございます。

10 月の 7 日の劇団四季は、リーフレットには四季としか印刷されていませんけれども、最近演目がきまりまして、今年はジーザスクライストスーパースターという風に聞いております。

11 月の 14 日はディズニーオンクラシック、魔法の夜の音楽会 2014 ということで、最近アナと雪の女王が大ヒットしておりますが、もちろんこのヒット曲も生で聞けるプログラムとなっております。

そして、年があけまして、2 月 22 日、これは八戸パフォーマンス劇場と八戸子供フェスタを同時開催いたします。

3 月の 14、15 日は、54 回目になります八戸ファンタジーという流れで事業を展開しております。

公民館の事業としては 7 月 8 日から 9 月の 9 日までの第 2 と第 4 の火曜日に南部昔っこ語り部講座を開催いたします。そして 1 月 10 日に公民館の演劇塾生によります演劇の発表会、演劇塾の稽古はジュニアは 10 月から、そしてシニアのほうは 11 月から稽古を始める予定となっておりますけれども、その発表会が 1 月 10 日に予定されております。

南郷の事業といたしましては、8 月の 31 日にアコースティックライブ in 南郷という、アコースティックの生の演奏のコンサートがあります。そして 9 月 28 日、名称「南郷アートジャズフェスタ」という名称で、去年までは、「ビバボッサ」という名前でやっていましたけれども、これのバージョンアップで、要は一緒にいろいろやりましようとい

うような、ホールの中・外ひっくるめてのフェスタを作ります。

10月19日は、ジュニアジャズのコンサート。11月20日はスウィングベリーのジャズパーティということでジャズのコンサートが続きます。そして、年が明けました3月22日はSJO、スウィングベリージャズオーケストラのコンサートを行います。

先ほど森下真樹さんのダンスの話が出ていましたけれども、今年度南郷で行われます文化事業の中の「ダンス活性化事業」これは1月25日、森下真樹ダンス公演を開催いたします。それと南郷名画座ですけれども、南郷名画座は8月と12月に開催し、8月のほうは「魚影の群れ」と「傷だらけの天使」、それと昨年南郷アートプロジェクトで製作しました「はとまつり」の映画を上映しようという事で、上映選定委員会で決定しました。

12月のほうは、国立近代美術館フィルムセンターのほうからフィルムを借り上げての上映会となっています。

南郷アートプロジェクトに関しましては先ほど、高橋専門員のほうから話がありましたとおり、ホールの公演のほうは、10月5日に大駱駝艦の舞踏の公演、そして12月の6日と7日コンテンポラリーダンスの公演でダンスバイジャズ、そして中野小学校でのダンスの製作と、島守保育所を活用したダンサーたちの合宿所、そして地域の交流の場といいますか、アートで活用する試みをこれからも続けていきたいと思っております。

以上で今年度の事業の説明を終了させていただきます。

●会 長

何かご質問はありますか。一番初めに、文化庁長官賞を受賞したのは大変喜ばしいことで後押しになりますね。これは特段セレモニーのようなものはやらないんですか。

●事務局

5月8日に文化庁長官に来ていただいて表彰授与式を行って、それが一応セレモニーという形です。

●会 長

例えば三社大祭のときに、のぼりを持って歩くとかそういうことはしないんですか。せっかく受賞したのだから、のぼりや横断幕などで市民にもっと知らせたほうがいいのではないですか。この賞は一度しかもらえないんですよ。

●事務局

はい、そうです。市民に見ていただこうと思って、市民の目につく場所に賞状と賞杯をと思い、はっちに展示していますので多くの方にご覧になっていただいているかなと思います。

●会 長

せっかくだから、三社大祭には県内外からお客様が来るのだから、それくらいやってもいいのではないか。外枠から攻めていけばそうすると中身をもっと頑張らなくてはという気持ちになります。やっぱり県内で最初にもらうというのは大事ですね。助成事業や補助金は、これは後でやります。ワークショップ構想でこの会議の最終的にも係っていくのは市長のまちづくりのビジョンのひとつであるところの、本質の部分だと思いますが、ワーキンググループ等を庁内でやっているようで、それがある程度出てきたところでまた皆さんからご意見をいただく、これは次回ですか。

●事務局

そうですね。次回にはある程度のたたき台を用意して、そこでいろいろご意見をいただければなと考えていますので、もうしばらくお待ちください。

●会 長

それからアートのまちづくり関連で南郷アートですね。島守とのコラボで面白くなり
そ
うな雰囲気がありますね。あとは工場大学ですが、これはデータをソフト化して販売できないのですか。今八戸を紹介するエイトフォンでしたか。何か無かったですか。

●事務局

八戸を紹介する i8nohe ですね。アプリですね。

●会 長

あれはあれで面白いですね。もう一つ、工場のなんとかというソフトになって日本全国で市販されています。著作権はちゃんとこっち側で収録したり協力しているので、こちらの財産ですよ。できたら携帯などでダウンロード出来るようにするとビジネスになります。あとで分かったらお教えします。皆さんから何かご質問ありますか。

●●委員

普段考えていることですが、三社大祭の山車を作っている人が高齢になってきています。ミニ山車はある特定の人しかみなくなりましたが、ミニ山車のコンペのようなものやってみてはどうかと思います。若年層などの興味を持ち、盛り上がるのではないかと思います。どうでしょうか。はっちがやるのかコンベンションがやるのかよく分からないのですが。子供たちにミニ山車製作にチャレンジしてもらい、それを展示したり、できれば賞をあげたりしてはどうでしょうか。

●会 長

あれは、運営など組織しているところは別ですか。

●事務局

観光コンベンションが中心になり審査や諸々の調整や交通関係など、諸々の調整を行っています。

●会 長

青森市の子供ねぶたもありますが、だんだん子供が少なくなって大変になってきていると言われてしています。製作ボランティアは来ているんですか。

●事務局

基本的には、山車を作るのは、ボランティアといいますか町内で作ります。

●会 長

真ん中のところがだめになって八戸大学の学生ボランティアとか。それはアイデアの一つですよ。その他何かありますか。

●●委 員

工場大学の件ですが、バスツアーを組んでやるのですか。バスは1台限定ですか。

●事務局

バスツアーを組んでいけるかどうかなど、工場側には了解を取っておりませんし、どんな形で実施するのかを含め、内容については現在検討中です。

●●委員

この間、三浦哲郎文学のバスツアーを3,000円で45名先着で企画したら60名くらい申し込みが来て、30人くらいは断りました。こういうのは魅力があるし、八戸キャンオンなんかに行きたいという人は結構います。

●事務局

ただ、こちらの対象者は受講生に限り、募集人数は30人ですのでそれ以内の範囲であればバスというよりはもう少しこじんまりとした形かなと思っています。

●会 長

その他、委員、何かありますか。

●●委員

せっかく受賞したのであれば、その内容的なものを市役所でも入り口のところで見せるようにすれば、もっと関心が湧くし、受賞という1行の文字だけ見ても何のことかわからないという人もいると思うので、もっともっと宣伝活動が必要だと思います。さ

きほどの子供のお祭りのことでも、それに関心を持って大人になってからもっとやりたいと思う人が増えると思いますし、時代でつなげていくものがあつたほうが、より文化としては伝承性があると思います。

それから一度参加してみても思ったんですが、催しだけでは文化は決してできないと思いますし、どちらかというとな女性群は環境を作つてほしいというのが第一だと思います。「歩いていてこんなものがあつたよ」というよりも、「歩いていてつまらないから」という声もたくさんあるのが正直なところです。ピンポイントでいろいろありますが、車で行つても歩いて行つてもきれいな環境が理想で、例えば高速道路を走ると気持ちが良く、どこを歩いていてもきれいだと思いますが、でも周りに何も無い、高速は降りられない、まちなかであれば1時間でも2時間でも歩きたい人は多いですが、歩ける場所がないという人が多いので、環境的な芸術のまちというものをぜひ最初に作つてもらいたいと思います。歩いてなにもない商店街みたいなどころへ行つて、ここにこんなものがあるのか、と思つてもすぐに忘れてしまうケースも多いと思うので、そのへんのところを時代を超えて何十年かかつてもいいから、環境的なものを是非作つていただきたい、そこから考えていきたいと思います。

●会 長

ありがとうございました。大変貴重なご意見ですね。その他何かありませんか。

●●委員

あまり他分野のことは言えないですが、今、●さんがおっしゃつた環境づくりについての提案というか以前から思つていますが、日本の楽器はすごく長持ちします。例えば中学生ぐらいになるとほとんど使わなくなるピアノの寄付を地域から募り、簡単なメンテナンスをして小学校の各机に一個ずつ配備する。買つていただくのは数百円のマウスピースだけ、それを市で行つて、もちろんそこに座る子供は家に持ち帰つて自由に使つてもよく、壊れたものについてクラスで管理するというのを市でやるなどすれば、新入生を持つ親の負担を少なくしたり、楽器の有効活用ができます。これはスケート靴にも言えることですが、これは成長が早くて1シーズンも使えない場合があります。大きめのサイズのものを買つて中敷をたくさん入れて使うところから始まりますが、やはりジャストフィットというのが最も足にも負担が少なくていいようなので、空き教室を利用して地域でやるとか、そこから1シーズン好きな靴をもつていつて使いなさいというようなことを地域でやるなど、これも環境に関わることです。あとは、ちょっと突拍子もない話ですが、ピアノが各家庭に余つて大変みたいです。どこか高く引き取つてくれないかなど、たまに聞かれることがあるのですが、運送費だけでも相当高いのでほとんど高く売れない状態です。例えば、これも寄付を募つて学校内や空き施設で自由に使えるようにし、八戸の子供たちは必ずピアノを習い、40年後にはピアノを弾ける市民しかいなくなるという壮大なプロジェクトですが、現役を引退した講師の方にボランティアをお願いするとかというような事などがでしょう。

●会 長

もう 20 年以上前ですが、鱒ヶ沢が日本海記念館というものを作り、海外向けに日本語通訳のブースを設け、日本海の学術センターという思いを込めて作りました。結果的には公民館になって今はぐちゃぐちゃですが、そのあとどうするかということで 4 年に 1 回のお祭りを毎年やるようにしたり、あの時はアルバイトに行くとお金がもらえたのです。スイミングや自転車に乗ったりする。その後、クラシックに向けて若手の登竜門を含めて考え、なおかつピアノを数十台寄贈してもらいました。でも維持管理が結局うまくいってなくて、今はもう駄目になっている。そういう意味では長くビジョンをもってやるといいんじゃないかと思います。たった一匹の犬があのようにまちの運命を変えるとということもありますから、何とも言えないところもあります。

八戸に住んでいた時に思いましたが、男性的なまちで、今、八戸はアートなまちづくりを含めて仕掛けている。だからこの仕掛けがどこまで延々と続けられるかどうか。行政がお金を使ってやるのはそれなりの意図があってやるわけですが、それを受けた市民が育てていくというようにところに結びつくようなビジョンがあればいいかなと思います。今は盛り沢山だからこれだけあるというのを知ってもらって、その中から残っていくのもあるだろうし、また違うものも生まれるかもしれない。環境とか自然がもともとそういう意味合いが最初の段階はありましたよね。

●●委員

せっかく美術とかいろんなところでやるのであれば、環境音楽と一緒にやればもっとスケールが大きく、それらしくなるのではないか。例えば、東京ではいろいろな場所で環境音楽がものすごく多いんです。普通目で見ても面白いのが芸術ではないと思うので、もっと質が高い、こんなものもあるのかと言わせるためには音と一緒にやると面白いのかなと思います。八戸は、ただ流れていて面白い環境音楽がほとんど無いところで、それも私からみれば不満の一つです。東京は歩くといろいろな音が聞こえてきたり、気持ちのいい音とか、例えば駅なんかだと少し過剰かもしれませんが、フランスでは地下に行くとき必ずジャズとクラシックとか小さく静かなところに流れていて、すごく気持ちよくて本を読みながら 1 時間ぐらい居たりすることがあります。東京まで行ってそれを聞くという気にはなかなかならないので、八戸でそういうものができればいいかなと思います。今すぐ質の良いものとは言わないですが、長くかかってそういったものもコンクール形式でやったり、子供なら子供のものも特に限定ではないですが、どっと集めて練習場はここと何台も集めて、例えばそれができるのであれば寄付を集める。そこである程度練習をして専門的に習うのもどちらでもいいんですが、小学校部門やこのレベルの部門、環境のデザイン画のコンクールなど小さいコンクールを繰り返していくと、やはり克己心とか野性的に挑む子が増えると思います。今回のサッカーではないですが、非常に野性味が足りないのかなと思います。ここはそういう点が原始的に出ています。田舎くさいだけなのかわかりませんが、結局不満が多いとそういった力が募ってくるのでいいんじゃないのかなと思います。せっかくあるものを使うのもいいような気がします。

●会 長

そういうものに気がついて誰かやる人が出てきたらいいですね。実はACAC（国際芸術センター青森）でアーティストが亡くなるという不幸なことがありました。私はその週に学生を連れて行く予約をしていたのです。その前の日にエンジンうまく回っていないとうので、夕方、別の先生が見に行ったのですが、結果的にその日に亡くなっていました。今、管理も含めて少し引いている部分があります。アーティストだからかなり個人の自由というものを大事にしないといけないというところもあるんですが、結果的に死に至ってしまった。これは管理責任というのものもあるし、アートというのはそういう危険な要素があるので、その部分を提供する側がどこまでやるのか、ACAC絡みで公立大は随分困っているようです。でも、秋にはまたやるそうで、県内外から百数十名応募があるということです。いずれにしても誰かが取っ掛かりをしてくれるといい。

南郷アートはいろんなコラボで住み着いて、南郷の人たちにはだんだん定着してきて、それがこちら側にも広がってきている。南郷のお酒などもあり、少しずつ南郷もプライドを持ってきたなと感じています。

●●委員

僕はいろんな形で関わっていますが、今おっしゃったように、すごく盛りだくさんで担当者の方々は本当に頑張っていますので、僕はバックアップしてあげようと思っています。はっちさんなんかも年中休みなしでやっていますから倒れないように続けるように頑張ってもらいたいと思います。

●会 長

行政が関わると、ここまでなんだろうなと思います。その他いかがですか。最終的に全体としてある程度ビジョンという形でまとめて、それがまとまるとそれに合わせて総合計画とも連動させて街づくりをすすめていきます。本当に息切れしないように、そういう意味ではどんどん人事刷新が今必要かもしれません。亡くなった中里市長がおっしゃっていた八戸市民のポテンシャルがわかりました。

さてそれでは二つ目の 26 年度の多文化都市八戸推進事業補助金の審査について事務局から説明をお願いします。

●事務局

では、「多文化都市八戸推進事業補助金の審査について」ご説明いたします。先程説明いたしましたとおり、資料 1-3-1、2、3 に要領、審査基準などがございます。

この補助金については、事業実施する方を、4 月 21 日から 5 月 30 日まで公募いたしました。

今年度は、2 件の応募をいただいております。資料は、受付順となっております。今回は 2 件ともに、市民企画部門での申請となっております。

補助対象者は、八戸市民、又は市内に本拠を有する団体であること、事業を完遂（か

んすい) できること、直近3ヶ年分の市税等を滞納していないことが条件となっております。申請のあった2件の事業は、いずれの条件も満たしておりますので、ご報告いたします。

当補助金の対象事業の決定にあたっては、多文化都市八戸推進懇談会の審査結果をもとに、決定することとしておりますので、皆様に審査をお願いしたものです。

なお、皆様には、事前に関係書類を送付いたしまして、先駆性、実験性、独創性、実現性、発展性、計画性、公益性の7つの項目について、採点をしていただいております。その採点結果は、資料2-2、2-3となります。

それぞれの申請内容については、事前に申請書をお送りして各事業概要について、ご理解頂いているものといたしまして、事業の詳細についてのご説明は省かせて頂き、申請内容について補足的なご説明と、採点結果についてご報告させて頂きたいと思っております。

まず資料2-1をご覧ください。一つ目の申請ですが、事業名は、現代美術作品展「ジャンルレス展」です。申請団体は、「現代芸術教室アートイズ」です。

アートイズは、八戸学院短期大学幼児保育学科で美術講師をお勤めの飯田竜太氏と佐貫巧氏が結成した、幅広い年齢を対象とした現代美術教室を開催する団体です。今回申請の企画とは別に、毎週土曜日に様々なコースの現代美術教室を主催しており、八戸における現代美術の裾野拡大に努めていらっしゃいます。

今回申請の企画は複数名の作家を八戸に招聘し、一定期間滞在いただいた上で八戸の風土や文化に根ざした作品を制作していただき、展覧会を開催するものとなっております。

ただ展示するだけでなく、各作家ごとに作品解説を行うギャラリートークやワークショップを実施することで、作家と鑑賞者の距離を縮める試みもなされています。

次に、二つ目の申請ですが、事業名は「銀の滴降る降る杜に2014」です。申請団体は「銀の滴降る降る杜に実行委員会2014」で、昨年度は「素浪人プロジェクト」名義で「銀の滴降る降る森に2013」を実施し、当補助金の交付を受けております。

この事業は、地元の歴史や風土と先進的ライブのコラボレーションにより旧南部領ひいては北東北の文化的資源の豊かさ等を再発見してもらうことを目的としています。今年度はおがみ神社境内を会場に「義経北行伝説」をテーマにするなど、昨年度より深く地域を掘り下げた内容となっております。また、本番までに更に市民参加型のプログラムも加えていく予定とのことです。

次に、委員の皆様は、事前をお願いしていた採点の結果についてご説明します。委員の採点の合計が概ね7割以上の企画について、規定に基づいて補助金を交付することとなっております。

資料2-2をご覧ください。まず、現代美術作品展「ジャンルレス展」です。委員名は伏せて順不同で並べております。委員7人の合計点数は、388点となっております。490点満点の7割で、343点以上が必要となりますが、こちらの事業は、この条件を満たしております。実験性、独創性について高得点となっております。

時間や予算などの計画性について若干心配する御意見もありましたが、企画自体は高

評価であり、若い新たな風に期待したいという御意見が中心でした。

次に、資料 2-3 をご覧下さい。「銀の滴降る降る杜に 2014」です。こちらにつきましては、●委員は出演する演目もごさいますので審査から外れていただいております、委員 6 人での採点となっております。

420 点満点の 7 割で、294 点以上が必要となりますが、合計得点は 336 点で、基準を満たしております。

こちらは、独創性、実現性、計画性で、高得点となっております。昨年度の実績から実現性等が評価され、新たにおがみ神社の境内を舞台にして義経伝説を題材にするなど、より地域と密着し、発展した企画から独創性にも高評価が入りました。

以上で、各事業の書類審査についてのご説明は終了させていただきます。

今回、申請いただいた事業 2 件は、どちらも審査基準点を満たしております。また、補助申請額は 10 万円となっております。

当事業の予算は 30 万円ですが、要領に定めており、10 万円が上限となっておりますので、申請額どおり 10 万円ずつの交付としたいと考えております。委員の皆様のご意見をお聞かせ願いたいと思います。

●会 長

はい、ありがとうございました。今説明がありましたが、特に 2 本の市民企画部門のエントリーの詳細が資料 2-1 に概要や予算も。別途の資料はいただいたと思います。その採点した結果が資料 2-2 にあります。7 割以上というラインを越えているということですが、何かご質問、ご意見ございますか。

●●委員

現代美術作品展というのは自分で勝手に想像して採点したのですが、実際にどのようなものか例を添付してもらいたいなと思いました。どういうものかちょっとイメージがつかないです。東京では現代美術と現代音楽は自分でもやりましたが、もっと進んでいくだろうとは思いますが。この人がやりたいのはジャンルレスと書いてありますがどういうものなのか見てみたいです。

●会 長

イメージしにくいところはありますね。新しく来たほうの先生が良くわからないんですが、たぶん油絵関係だとは思いますが。飯田くんは僕が日芸(日本大学芸術学部)に頼んでエントリーしてもらいました。非常に面白い造詣と油絵で工夫して短期大学では必要なので。彼は学芸大学を終わりましたので人脈は相当できたと思います。そういう意味では何か出来ると思います。しかも気心が知れた二人でやりますから未知の可能性もあるかもしれないです。問題はやっぱりポジションがポジションですので、業務上の制約が無ければいいなと思います。そういうものに投資してなんとかするのが狙いだから、ちょっとそういうものがあつたほうがいいかもしれないですね。あと何もないとすればこの

2本は審査をクリアしたということでしょうか。

●●委員

飯田さんの個展を彩画堂に見に行ったんですが、面白かったです。もっと早く知って
いれば飯田さんの作品がどういうものかわかるんですが、もう終わりましたね。

●会 長

たぶんそれとは違うパターンでいくんだろうと思います。

●●委員

あれは個人の、御自分の、個展ですからね。

●会 長

恩師が俺を超えるなっていうプレッシャーをかけている。秋田のかまくらとか、地域
づくりに関わっているんですよ。だから単なる造形作家だけでは終わるなど。それでは
あともう1本のほうは2014となっているけどこれからどんどん発展していくのかな。既
に実績があるということですね。特段なければ先ほどの案でいいということで審査の結
果というふうにしたいんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。はい、ではよろ
しくをお願いします。

これで今までで何本あったでしょうね。ある時期に一堂に会してやってもらったらそ
の1年間埋まるじゃないですか。もう一回振り返り成長までを見せてほしい。11万円く
らいつけて、1万円こっちも太っ腹でつけて。どのように育っていったかやその後は重
要なことですね。ひょっとしたら解散したかもしれない。これをきっかけにもっとすご
いことになっているかもしれない。この狙いはそういう意味ではありますよね。という
ことで何かそういう仕掛けを考えましょう。それでは今日の与えられた審議案件につ
いてはこの2本です。

●会 長

それでは残り何かご意見ありましたらいただいて、無ければ今のことをまとめていき
たい。さきほどおっしゃっていたピアノはメロディオンと同じものですか。

●●委員

鍵盤ハーモニカが正式名ですが、どちらでもいいです。

●会 長

こういうの(マウスピース直接)と、少しこれ(チューブ)がついているのがあります
よね。

●●委員

普通は両方つきます。

●会 長

僕が小さい時は習ったけど今もまだやっているんですか。

●●委員

小学校では使っています。

●会 長

これは終わったらどうなるんですか。

●●委員

ほぼ捨てたりとかしています。全然使えるんですが。

●会 長

もったいないですよ。

●●委員

毎年数千円で買うわけですね。マウスピースだけだと数百円で買えます。壊れていなくて、例えば高校くらいまで頻繁に使ったとしても、鍵盤が1個とかリードが1箇所、これは専門の方に見てもらおうとかなり安く直せます。

●会 長

小学校全部で800人コンサートとかね。八戸小唄をやれとは言わないから、たくさんいれば簡単なものでも相当なものになると思います。公会堂を貸し切ってやるとか、外でやるとか面白いかもしれないですね。この会からの提案にすれば、かすかに家に眠っている可能性が大ですよ。それをもう少し僕も考えてみます。

●●委員

ハーモニカと縦笛は直接口を付けるのでどうなんだろうというのがありますが、ピアノはマウスピースを変えるので。

●会 長

ちょっと楽しみが増えました。それではそういうことでお開きにしたいと思います。事務局のほうにお返しいたします。お願いします。

●事務局

それでは、次回の会議ですが、先程文化のまちづくりビジョンのスケジュールにもありましたとおり、10月下旬頃を予定しております。日時や場所の詳細につきましては後日改めて御案内いたします。

本日は御多忙のところ、大変ありがとうございました。これからもご協力をお願いいたします。